

よくあるご質問と回答 Arcserve Replication/HA 18.0

全般

Q1. レプリケーションとは何ですか？

レプリケーションとは、本番で運用中のサーバデータを、もう 1 台のサーバに自動的に複製する仕組みです。手間をかける事なく、最新の同じデータを 2 つのサーバで同時に持つことが出来るとても簡単なデータ保護の手段として用いられています。

Q2. レプリケーションはどんな用途で使う事ができますか？

レプリケーションは以下のような用途で使われています。

- ・バックアップを行うほど手間をかけられないサーバのデータを簡単に保護するため
- ・本番機が故障しても複製先のサーバを使用して、業務を継続するため
- ・災害対策として、遠隔地にデータを簡単に転送するため

Q3. バックアップとレプリケーションの違いは何ですか？

バックアップは、本番運用しているサーバのデータをテープデバイス等の外部メディアに保存し、法令に従った長期間のデータ保管やデータの世代管理などを行う事ができます。サーバが故障した場合は、テープ等に保存したデータをリストアする事により、システムを復旧します。

一方でレプリケーションは、本番サーバのデータをもう 1 台のサーバ（レプリカサーバ）にリアルタイムに複製します。本番サーバが故障した場合にも、レプリカサーバのデータをそのまま利用する事が出来るため、業務の中断時間を短くする事ができます。

またテープ交換等の定期的な作業が必要なく、比較的運用に手間がかかりません。

Q4. すでにバックアップを使用している環境でも、使う事ができますか？

バックアップをご利用頂いている環境でも、お使い頂く事が可能です。データの長期保管や世代管理に強みを持ったバックアップと、データのリアルタイム性や業務継続性に優れたレプリケーションとの組み合わせにより、お客様のより高度なデータ保護ニーズに対応する事ができます。

Q5. Arcserve Replication/High Availability は WAN 環境でも利用できますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability は、WAN 環境でご利用頂くために最適化されたデータ転送の仕組みを持っていますので、LAN 内だけでなく、WAN 環境でも安心してお使い頂く事ができます。

Q6. Arcserve Replication/High Availability はクラウドを利用できますか？

はい。Arcserve Replication は、Amazon EC2、Microsoft Azure などのクラウド コンピュータにインストールして、オンプレミス - クラウド間でレプリケーションを実行していただけます。そのため、災害対策サイトのない企業でも、最新のデータをクラウドにレプリケーションした災害対策が可能です。対応するクラウド環境については[動作要件](#)をご確認ください。

Q7. 試しに使ってみたいのですがどうすればよいでしょう？

無償のトライアル版（評価版）をお申込みいただくか、無償ハンズオンセミナーにお越しください。それぞれ、以下のページでお申込みいただけます。

- ・ [トライアルお申込み](#)
- ・ [Arcserve Replication/High Availability 無償ハンズオントレーニング](#)

Q8. トライアル版で評価後に購入しましたが、Arcserve Replication の再インストールやシナリオの再作成が必要ですか？

いいえ、再インストールおよびシナリオ再作成は不要です。製品ご購入時に付いてくるライセンス キーを入れていただくことで、評価版のキーを製品版のキーで上書きします。ご利用中の製品はそのまま運用継続できます。

Q9. 他に役立つ情報ソースはありますか？

はい。Arcserve ブログ [「それ、レプリケーションでよろしく。UDP ともども。」](#) には、Arcserve 製品をご利用いただく上で知っておくと便利な情報が多数掲載されています。

製品ラインナップに関する質問

Q1. Arcserve Replication と Arcserve High Availability の違いを教えてください。

Arcserve Replication は、レプリケーションに必要な標準的な機能を備えた製品です。Arcserve High Availability は Arcserve Replication の上位製品にあたり、レプリケーションを行う機能に加えて、本番サーバが運用継続出来なくなった場合にスイッチオーバーを行う機能を持っています。

Q2. Arcserve High Availability を利用するために Arcserve Replication を購入する必要はありますか？

いいえ、必要ありません。Arcserve High Availability はレプリケーション機能を備えており、単体で利用いただく事が可能です。

Q3. Arcserve Replication/High Availability の「アプリケーション対応」とはどのような機能ですか？

Arcserve Replication/High Availability の標準版製品はアプリケーション構成の自動検出を行い、最適なシナリオを提示するため、レプリケーションの設定を簡単に行う事ができます。また、標準機能のリwind技術を使用する際、チェックポイントやログローテーションなど、データベースに適したイベントを復旧ポイントとして選択することが可能です。

Q4. Arcserve Replication/High Availability の「ファイルサーバ専用製品 (for File Server)」とは何ですか？

Arcserve Replication/High Availability の標準版製品からアプリケーション対応機能と、アシュアードリカバリ機能を省いた廉価版です。ファイルサーバの保護に必要な機能を安価にご利用いただく事ができます。

Q5. Arcserve Replication/High Availability を使用するために、Arcserve UDP や Arcserve Backup を購入する必要がありますか？

いいえ。Arcserve Replication/High Availability は単体のレプリケーション製品として使用することが可能です。もちろん、Arcserve UDP や Arcserve Backup と組み合わせて使用することもできます。尚、Arcserve UDP Premium edition を購入することで Arcserve UDP の機能に加え、Arcserve Replication のファイルサーバシナリオも併せてお使いいただけます。更に Premium Plus edition では Arcserve Replication/High Availability の全機能をご利用いただけます。

導入・設計に関する質問

Q1. レプリケーションを始めるまでに必要な手順はどのような事ですか？

Arcserve Replication/High Availability を使ったレプリケーションは以下のステップで簡単に始めることができます。

1. ソフトウェアのインストールを行います。
2. シナリオと呼ばれるレプリケーションの定義情報を設定します。(ウィザード形式)
3. シナリオを開始したら、まずデータの同期処理(初期同期)が行われます。
4. 初期同期が完了したら、レプリケーションが自動的に始まります。

Q2. Arcserve Replication/High Availability のライセンスはいくつ必要ですか？

レプリケーションやスイッチオーバーなどを実行するコンポーネントである Arcserve Replication/High Availability のエンジンをインストールするマシンごとに必要です。

Q3. Arcserve Replication/High Availability を利用するために、共有ディスクは必要ですか？

いいえ、Arcserve Replication/High Availability は専用の共有ディスクを必要としません。複製元のデータを複製先に転送します。

Q4. Arcserve Replication/High Availability を使って遠隔地にデータを複製したいと考えています。**回線速度はどの程度必要でしょうか？**

Arcserve Replication/High Availability はどのような回線速度でもレプリケーションを行うことができます。ただし、回線が低速の場合、レプリカサーバにデータを転送するまでに時間がかかり、結果的にレプリカサーバのデータ鮮度が悪化します。どの程度悪化する可能性があるかを調べるためにはサーバの更新量の情報が必要です。Arcserve Replication/High Availability はデータの更新量を計測する「アセスメントモード」が搭載されています。このモードにより生成される情報から適切な回線速度を見積もることができます。

Q5. 遠隔地にレプリケーションするため、回線の帯域幅が心配です。業務への影響を避けるため、日中はレプリケーションに使う帯域を絞る、といったことは可能でしょうか？

はい、Arcserve Replication/High Availability の帯域制御機能を使えば、レプリケーションのために使用される帯域幅に上限を設ける事ができます。この上限値は時間帯ごとに柔軟に設定することが可能です。

Q6. Arcserve Replication/High Availability には容量制限はありますか？

いいえ、Arcserve Replication/High Availability は保護対象のデータに容量制限を設けておりません。ただし、容量関係では「同期」に要する時間にご注意ください。同期中はファイルのスキャン等を行うため本番サーバの動作が遅くなります。そのため、同期が夜間や土日のダウンタイムに収まるかどうか、サーバ容量を決める上での目安になっています。同期時間のベンチマークテスト結果を [「エンジニア必見！ Arcserve Replication の現場技」](#) に掲載していますので参考にしてください。特に気にしていただきたいのは差分同期の時間です。この差分同期が完了するまでの時間はファイル数に比例するため、データ量だけではなくご利用予定のサーバのファイル数も調べていただくとより厳密に見積もりが立てられます。 ※なお、「ホストメンテナンス」という機能の活用により、この同期処理の実施頻度を削減できます。

Q7. レプリカサーバのハードウェアはマスタサーバと同一にする必要がありますか？

いいえ、同一にする必要はありません。Arcserve Replication/High Availability の動作は特定のハードウェアに依存しません。

Q8. バージョンの違う Windows OS 同士のレプリケーションはサポートされていますか？

ファイルサーバシナリオではサポートされています。例えば、Windows Server 2012 R2 のマスタサーバから Windows Server 20016 のレプリカサーバへのレプリケーションなどの異なるバージョンへの複製が行えます。アプリケーションシナリオ (Microsoft SQL Server や Microsoft Exchange Server シナリオなど) ではサポートされません。

Q9. 本番サーバのマスタ側と複製先のレプリカ側で Windows OS の Edition を揃える必要がありますか？

Arcserve Replication では、マスタ側とレプリカ側で OS Edition が異なる場合でもご利用いただけます。ただし、High Availability をご利用の際は、マスタ側とレプリカ側の OS Edition も揃えてご利用ください。

Q10. Arcserve Replication/High Availability は Microsoft クラスタ構成 (MSCS/WSFC) をサポートしていますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability はクラスタの構成を自動的に認識し、Microsoft クラスタ構成からリモートホストへデータをレプリケーションできます。Arcserve Replication/High Availability はリソースグループのフェイルオーバーおよびフェイルバック時に、クラスタサービスの通知を受け取り、動作を決定します。Arcserve High Availability を利用すればマスタサーバのクラスタ システムが動作不可能となった場合に、自動的にレプリカサーバへスイッチ オーバーし運用を継続できます。

※ただし、Oracle Database シナリオおよびフルシステム シナリオはクラスタ環境に対応していません。

Q11. Hyper-V ライブマイグレーション環境のゲスト OS に Arcserve Replication を導入できますか？

はい、導入できます。Arcserve Replication はライブマイグレーションを構築されている Hyper-V ホスト OS (管理 OS) には導入できませんが、ライブマイグレーション環境で動作しているゲスト OS に導入できます。

Q12. Microsoft Exchange Server などのアプリケーションデータを複製する場合、レプリカサーバにもアプリケーションをインストールする必要はありますか？

Arcserve Replication を利用してデータの保護のみを行う場合、レプリカサーバに対して対象アプリケーションのインストールは必須ではありません。ただし、この場合アシュアードリカバリは利用できず、レプリカサーバに切り替えて運用することもできません。

Q13. Arcserve Replication は多数のサーバからのデータを、1 つの場所に統合できますか。**また、複数のサーバに複製することはできますか？**

はい。Arcserve Replication は、多数のサーバから 1 つのサーバ (N 対 1) へのデータのレプリケーションができます。さらに、1 つのサーバから多数 (1 対 N) のサーバへのレプリケーションを行うことも可能です。

Q14. ドメインコントローラ上の共有フォルダを複製したいのですが、Arcserve Replication/High Availability で可能でしょうか？

はい、ドメインコントローラであっても導入が可能です。ただし、ドメインコントローラや DNS サーバ を High Availability でスイッチ オーバーすることはできませんのでご注意ください。

また、Active Directory データベースの複製はドメイン コントローラ自体の機能で行ってください。

Q15. データ圧縮はどのような場合に使用したら良いでしょうか？

データ圧縮を行うと、ネットワークトラフィックが大幅に節約されますが、これはデータが低速接続で複製される場合にのみ有効です。また、圧縮によってマスタサーバの CPU に余計な負荷がかかり、パフォーマンスが低下することがあります。そのため、同じ LAN 上に存在するマスタサーバのローカルレプリカを作成し、ここでデータ圧縮を行い、リモートレプリカサーバに転送することを検討してください。これによって、マスタサーバの処理が軽減され、最新でリアルタイムのローカルバックアップが作成されます。上記の環境ではローカルレプリカでは変更を受け取る処理と変更をリモートレプリカサーバへ転送する処理が同時に行われることになるため、ローカルレプリカの処理能力を強化することをお勧めします。

Q16. インストール後の再起動は必要ですか？

インストール後の再起動は必要ありません。そのため、今稼働しているサーバを停止することなく導入いただくことができます。

Q17. Arcserve Replication/High Availability の操作をスクリプトで自動化したいのですが、コマンドラインのインターフェイスはありますか？

はい。コマンドラインで Arcserve Replication/High Availability を操作するには Arcserve RHA PowerShell をご利用ください。

Q18. コントロール サービスを導入したサーバを再起動しても大丈夫ですか？

はい、大丈夫です。マスタやレプリカと違って、コントロール サービスは再起動してもシナリオの動作に影響しません。(コントロールサービスをマスタやレプリカと同居させている場合は、ホスト メンテナンス機能を使ってください。)

Q19. 日中のレプリケーションを止める方法はありますか？

はい、あります。GUI の一時停止ボタンを押していただくか、PowerShell のコマンド (Suspend-Scenario/Resume-Scenario) で実行できます。日中にほんの少しだけデータを流せる場合は、GUI で設定できる帯域制御機能をお勧めします。(Suspend-Scenario は同期中に実行できません。)

尚、停止中の (もしくは帯域制限で送りきれない) 更新データはマスタ側のスプールに格納されるため、スプール領域は十分に確保してください。 Arcserve Replication での PowerShell の使い方は[コチラ](#)をご覧ください。

レプリケーション/同期の仕組みに関する質問

Q1. Arcserve Replication/High Availability はレプリケーションされるデータを暗号化して転送することができますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability はマスタサーバとレプリカサーバ間の通信を暗号化してデータを転送することができます。

Q2. レプリケーション中は、変更があったファイル全体が送信されるのですか？

いいえ。Arcserve Replication/High Availability はファイルそのものではなく本番サーバで行われた変更処理を複製先（レプリカ）で再現する事によってデータをレプリケーション（複製）します。そのためファイル全体が転送される事はなく、ネットワーク負荷を最小限に抑えられます。

ただし、アプリケーションによっては、ファイルを新規作成することで内容を書き換えるものもあり（Microsoft Office など）、この場合にはファイル全体とほぼ同量のデータが転送されます。

Q3. マスタサーバ上で1つのファイルを、複数の人が共有しています。このような場合でもファイルは正しく複製されますか？

はい。レプリカサーバのデータの整合性を保つ機能「書き込み順序保証」が組み込まれているため、複数人が1つのファイルを共有している場合でも、正しく複製することができます。

Q4. 同期とは何ですか？レプリケーションとの違いを教えてください。

同期とはマスタサーバのレプリケーション対象データとレプリカサーバのデータを完全に一致させる処理です。レプリケーションは変更処理のみしか複製しないため、レプリケーション開始時にはその前処理として同期を行う必要があります。

Q5. レプリケーションと同期を同時に行うことは可能ですか？

はい。Arcserve Replication/High Availability はレプリケーションと同期を同時にサポートします。同期の実行中にも新しい変更の追跡を行います。回線速度が十分に確保されている環境では同期を行いながら新しい変更をレプリカサーバ側のスプールディレクトリに一時保管し、同期が終了次第、変更が反映されます。（ただし、回線速度が十分でない場合は同期処理によるデータ転送が優先され、変更はマスタサーバ側のスプールディレクトリに格納され、同期の完了後にレプリカに転送されて反映されます）。これによって、マスタサーバ上の通常の更新アクティビティを中断させることなく、同期を行う事ができます。

Q6. Microsoft SQL Server や Oracle Database、Microsoft Exchange Server 等をレプリケーションする際は、データベースを止めなければいけないのでしょうか？

いいえ、その必要はありません。データベースを止めずにオンラインでレプリケーションすることができます。

**Q7. 同期を実行する際に表示される、[同一サイズ / タイムスタンプのファイルを無視] オプションとは何でしょうか？
どのような場合に使用するのでしょうか？**

[同一サイズ / タイムスタンプのファイルを無視] オプションが選択されている場合、マスタ・レプリカでファイルパスと更新日時・サイズが同じファイルがあると、そのファイルは同期の対象から除外されます。これによって同期プロセスが格段に高速化されます。ただし、Microsoft Exchange Server や Microsoft SQL Server などのアプリケーションでは、ファイルの更新時刻を変更せずに（開いたまま）ファイルを変更するため、特別な理由がない限りこのオプションはこれらのアプリケーションには使用しないでください。

Q8. Arcserve Replication/High Availability のレプリケーション対象はボリューム単位で指定するのでしょうか？

いいえ。フォルダ / ファイル単位でレプリケーション対象を指定することができます。

Q9. Arcserve Replication/High Availability の運用によってパフォーマンスは低下しますか？

Arcserve Replication/High Availability の消費する CPU とメモリリソースはわずかで、帯域幅を効率的に使用します。通常は、サーバのパフォーマンス低下は通常の運用条件の 5%未満です（データ圧縮を使用する場合を除く）。ただし、Arcserve Replication/High Availability はレプリケートしたディレクトリにデータを書き込むすべての I/O リクエストをジャーナルとしてスプールするため、アプリケーションが I/O を多量に使用し、I/O 使用率が 100%に近い場合、レプリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。この場合、スプールディレクトリを使用率の低いディスクに設定することをお勧めします。

Q10. Arcserve Replication/High Availability では同期型レプリケーションまたは非同期型レプリケーションのどちらを採用していますか？

Arcserve Replication/High Availability は非同期型のレプリケーションを行います。そのため、帯域幅の影響などでレプリケーションが遅延する可能性があるかわりに、マスタサーバへ与えるパフォーマンスの影響が小さいという特徴があります。

レプリケーション対象に関する質問

Q1. Arcserve Replication/High Availability は GUID パーティションテーブル (GPT) ディスクに保存されるデータを複製することはできますか？

はい。可能です。ファイルサーバシナリオやアプリケーションシナリオを使ってデータを複製することができます。

Q2. システム領域のレプリケーションはサポートされますか？

いいえ、Arcserve Replication/High Availability は基本的にはデータ領域を保護するためのソリューションで、システム領域のレプリケーションはサポートされません。

システム領域の保護には、サーバを Hyper-V で仮想化したうえで Hyper-V シナリオを使用するか、フルシステム シナリオをご利用ください。または、バックアップ製品である Arcserve UDP、Arcserve Backup をご検討ください。

Q3. Arcserve Replication/High Availability は ファイル/フォルダのアクセス権 (NTFS ACL) や共有設定を複製することはできますか？

はい。NTFS ACL についてはマスタサーバでの変更がリアルタイムにレプリケーションされます。

また、Windows 共有設定は、Active Directory ドメインに参加しているサーバ間でのみ、同期のタイミングでレプリカサーバに反映されます。マスタ/レプリカサーバのいずれかがワークグループの場合、SID の不一致により同一のユーザとして共有フォルダにアクセスすることができません。

Q4. Arcserve Replication/High Availability は NTFS ファイル圧縮フラグを複製することはできますか？

はい、[NTFS 圧縮属性をレプリケート] 属性がオンの場合は可能です。

Q5. Arcserve Replication/High Availability では代替データストリームのデータを複製することはできますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability は代替データストリームに含まれるデータの複製をサポートしています。

Q6. Arcserve Replication/High Availability では スパースファイルを複製することはできますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability はスパースファイルの複製をサポートしています。

Q7. Arcserve Replication/High Availability では NTFS 重複除去 ボリューム上のファイルをレプリケーションできますか？

はい。Arcserve Replication/High Availability では NTFS 重複除去 ボリューム上のファイル/フォルダをレプリケーションできます。（レプリカでは重複除去は解除された状態でファイルが複製されます。）

Arcserve High Availability と自動スイッチオーバーに関する質問

Q1. Arcserve High Availability はどのような方法で切り替えを行うのですか？

Arcserve High Availability は「IP 移動」「コンピュータ名の切り替え」「DNS リダイレクト」「コンピュータ エイリアスの切り替え」の 4 種類の方式で切り替えを行うことができます。

1. IP 移動: マスタサーバの IP アドレスをレプリカサーバに移動させる方法です。
2. コンピュータ名の切り替え: レプリカサーバのコンピュータ名をマスタサーバのコンピュータ名に書き換えます。
3. DNS リダイレクト: DNS サーバのレコードを書き換え、マスタサーバのホスト名に関する名前解決の問い合わせに対してレプリカの IP アドレスを返させます。
4. コンピュータ エイリアスの切り替え: マスタサーバに紐付いている NetBIOS 名、もしくは DNS の CNAME で定義している本番サービスのコンピュータ名を、レプリカサーバに受け渡します。

これらの方法の組み合わせでクライアントからのアクセスをレプリカサーバに誘導します。切り替え方法の詳細は、[Arcserve Replication/HA の仕組み](#)をご確認ください。

Q2. Arcserve High Availability はデータベースとアプリケーションサービスの状態を監視できますか？

はい、可能です。Arcserve High Availability は Ping 監視だけでなく、データベースとアプリケーションサービスの状態を監視します。マスタサーバのデータベースまたはマスタサーバのサービスが応答しない場合、Arcserve High Availability は自動スイッチオーバーを実行できます。

Q3. サーバの状態を確認してからスイッチオーバーが必要かどうか判断したい場合に、自動スイッチオーバーを使用しないでおくことはできますか？

Arcserve High Availability は自動スイッチオーバーのほか、手動でのスイッチオーバー（ワン クリック スイッチオーバー）をサポートしています。これにより管理者の判断でスイッチオーバーを行う事ができます。

手動スイッチオーバーだけを有効にしたい場合には、[ハイ アベイラビリティ] プロパティの [スイッチオーバー]-[自動スイッチオーバーの実行] をオフに設定します。

Q4. スイッチオーバーでレプリカサーバへのユーザリダイレクトを実行しました。マスタサーバの修復後にスイッチバックを行えますか？

Arcserve High Availability ではスイッチバックもサポートしています。バックワードシナリオ（逆向きのレプリケーションシナリオ）実行後、スイッチバック処理によりユーザを元のマスタサーバにリダイレクトできます。

Q5. Arcserve High Availability のスイッチオーバーでコンピュータ名の切り替えを利用する場合、コンピュータ名の最後に「-RHA」を付けますが、Windows OS の NetBIOS 名(コンピュータ名)は 15 文字までしか付けられません。12 文字以上のコンピュータ名で運用している場合、コンピュータ名の切り替え方法は利用できないのでしょうか？

いいえ、12 文字以上のコンピュータ名でもコンピュータ名の切り替え方法を利用できます。

Arcserve High Availability では 12 文字以上のコンピュータ名を持つ場合、15 文字をオーバーする後ろの文字を切り詰めて「-RHA」を付け、15 文字に設定します。(例: ARCSERVEJAPAN → ARCSERVEJAP-RHA)

Q6. Arcserve High Availability の Hyper-V シナリオに複数のゲスト OS を選択した場合に、1 つのゲスト OS が利用できない場合でも全ゲスト OS でスイッチオーバーが実行され、複製側でアクティブになるのでしょうか？

いいえ、Hyper-V シナリオではゲスト OS ごとにシナリオを持ちます。Hyper-V ホスト側の障害など全ゲスト OS に関わるケースでは全てのゲスト OS でスイッチオーバーが発生しますが、1 つのゲスト OS のみの障害であれば、対象のゲスト OS のみスイッチオーバーが発生致します。

Q7. 複数のサーバで DNS を運用しています。Arcserve High Availability のスイッチオーバーで、複数の DNS サーバのレコードを書き換えできますか？

はい、できます。複数の DNS サーバのレコードを書き換える場合は、スイッチオーバー プロパティにある DNS リダイレクトの DNS サーバ IP に必要な IP アドレスを追加してください。

Arcserve UDP / Arcserve Backup との連携に関する質問

Q1. Arcserve Replication/High Availability で複製したデータを Arcserve Backup でバックアップする事はできますか？

はい。Arcserve Backup との連携機能を使用することで、レプリカサーバのデータを Arcserve Backup でバックアップすることができます。レプリカサーバでバックアップを行うため、マスタサーバに対して負荷を軽減し、バックアップウィンドウを気にせずバックアップを取得することができます。また遠隔地にあるサーバのデータバックアップを行う場合などにも有効です。

Q2. Arcserve Backup がバックアップして作ったバックアップデータを Arcserve Replication で遠隔地などに複製することはできますか？

はい。ファイル システム デバイス (FSD) を利用してバックアップをしている場合は、バックアップされたデータ量がそのままレプリケーションされるので、帯域幅にご注意ください。ファイル システム デバイス (FSD) の代わりに、データ デデュプリケーション デバイス (DDD) をレプリケーションすることで、帯域の使用量を節約できます。

DDD を Arcserve Replication で複製する方法については Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド「Arcserve Replication でデデュプリケーション デバイスをレプリケートする方法」を参照ください。

Q3. Arcserve Replication/High Availability で複製したデータを Arcserve UDP でバックアップすることはできますか？

はい。Arcserve UDP は標準で VSS スナップショットを利用したバックアップにも対応しているため、レプリケーション中のファイルであっても直接バックアップすることができます。

Q4. Arcserve UDP Agent の バックアップデータを Arcserve Replication で遠隔地などに複製することはできますか？

はい、Arcserve UDP のバックアップデータを保管するフォルダを指定してファイルサーバシナリオを実行する事で、UDP のバックアップファイルをレプリケーションすることができます。

データ破損に関する質問

Q1. レプリカサーバのデータを特定の時点にまでリワインドできますか？ また、1つのファイルのみをリワインドできますか？

リワインドとは、レプリケーション対象のデータセットを特定の時点まで巻き戻す機能です。1つのファイルではなく、レプリケーション対象のすべてのファイルを特定の時点にリワインドできます。ファイル単位での復旧を行いたい場合は Windows Server の標準機能である共有フォルダのシャドウコピーサービスや Arcserve UDP や Arcserve Backup と組み合わせてご利用ください。

Q2. 複製元のファイルが論理的に破損した場合、複製先のファイルも破損しますか？

はい、破損してしまいます。ただし、Arcserve Replication/High Availability はリワインド機能を使用することにより、レプリカサーバ上の継続的な変更履歴を保存できるため、必要に応じてこれらの変更を良好な状態に巻き戻せます。また、世代管理を含めたデータの確実な保護を検討している場合には、Arcserve UDP や Arcserve Backup と組み合わせて利用することをお勧めします。

シングルサーバレプリケーションに関する質問

Q1. 同一サーバ内でレプリケーションをする事はできますか？

はい、Arcserve Replication では同じサーバ内でデータをレプリケーションできます。これによりネットワークストレージ専用機器 (NAS) や外付けハードディスクにデータを複製する事も可能になります。

Q2. 複製先を別サーバの共有フォルダにして、シングルサーバレプリケーションの構成でデータの複製をすることはできますか？

はい、Arcserve Replication はネットワークストレージ専用機器 (NAS) 上の共有フォルダをレプリケーション元、またはレプリケーション先に指定する事ができます。別サーバに複製する場合には、Arcserve RHA エンジンを導入してください。

Q3. シングルサーバレプリケーションの構成で遠隔地にあるネットワークストレージ専用機器 (NAS) に向かってデータを複製することはできますか？

いいえ、遠隔地にはシングルサーバレプリケーションは使えません。Windows Server OS 搭載の NAS に エンジンを導入してレプリカサーバとし、1対1のレプリケーションシナリオを作成してください。

Q4. シングルサーバレプリケーションの構成で、データベースなどのアプリケーションデータを複製することはできますか？

同一サーバ内でインスタンスや仮想マシンを重複させることはできないため、Oracle Database や Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server、Hyper-V 仮想マシンを保護するためには別サーバにデータを複製してください。

Linux サーバのレプリケーションに関する質問

Q1. Arcserve Replication/High Availability は、Linux サーバのデータをレプリケーションできますか？

はい、Linux サーバは、フルシステム シナリオをサポートします。フルシステム シナリオは、OS を含むデータを仮想マシンに複製し、障害時の最新の状態を仮想環境に構築し、業務継続を実現できます。